

編纂所だより

大阪市史編纂所(発行)

第 61 号

大阪市史料調査会(編集)

〒550-0014 大阪市西区北堀江 4-3-2

大阪市立中央図書館内 Tel.06-6539-3333

香具波志神社のパンフレット ―昭和戦前期における神社の自己認識―

神崎川が猪名川と落ち合う辺りの左岸(南岸)に位置する淀川区加島に、香具波志神社という社が鎮座しています。当社に伝存している膨大な歴史資料「香具波志神社文書」は、編纂所による調査・整理を経て、本年大阪市の指定文化財に登録されました。小文では、この資料群のなかから、昭和戦前期に作成された案内パンフレットにスポットライトを当ててみます。

観光ブームが隆盛する 1930 年代、香具波志神社は「香具波志神社略案内」と題するパンフレット(外6つ折り)を編んでいます。これには昭和 8 年(1933)の初版と昭和 14 年の改訂版があり、

いずれにも創建の経緯、祭神の来歴、加島の起こり、氏子・崇敬者の由来、境内の配置、宝物などが簡潔にまとめられています。

社掌(神職の1つ、現在の権禰宜に相当)の藤富士雄による熱心な推敲の跡がうかがえる初版の草稿のみならず、初版に富士雄の手で書き込みが加えられたものも数点残されているこ



「改訂版 香具波志神社略案内」(部分)

とから、香具波志神社が案内パンフレットの作成・補訂に注力していたことは間違いありません。

その集大成ともいえる改訂版と初版の間には、記載内容に関する重大な相違が見られます。すなわち、「当地は往古支那文化の発達せし猪名の入海に位し」「当加島は秦人の移住帰化したる土地」など初版に見られた記述が、改訂版では一切削除されているのです。香具波志神社が鎮座する加島という地域の歴史に関し、中国文化の影響や朝鮮半島から移住してきた渡来人との結びつきが否定され、日本の「内地」に限られた由緒や神話的な要素のみが強調されるようになったのです。

みずからが鎮座する地域をどう把握するかは、自社の来歴をいかに認識するかという神社の自己認識にかかわる重要な問題です。それがわずか6年間で大幅に変更されたのは、昭和 12 年に勃発した日中戦争と深く関連していると考えられます。これを機に、日本による中国侵略を合理化する

「東亜新秩序」構想が打ち出され、東アジアの盟主たるべき日本の主導性（優越性）が強調されるようになったからです。改訂版において中国・朝鮮との歴史的関係性が抹消されたのは、日中戦争や「東亜新秩序」構想に香具波志神社が敏感に反応した証と理解することができるでしょう。

このように2つの案内パンフレットを対照することで、香具波志神社が日中戦争を時代の転換点ととらえ、体制的な動向や時勢の推移に適合的な自己認識を練りあげていった歴史に辿りつくことができました。往々に“雑史料”として片付けられがちなこの種のパンフレット類には、小文で紹介したとおり、作成者側の自己認識やアピール・ポイントが凝縮されているものです。神社がみずからの来歴をどのように認識し、何を“売り”にしようとしているのかが端的に提示されているという点で、その案内パンフレットは意義ある歴史資料といえるのです。（平良 聡弘）

「即席料理 素人包丁」 —江戸時代の家庭料理レシピ—

とても珍しい、江戸時代の料理本をご紹介します。享和3年（1803）に大坂心齋橋の河内屋茂兵衛が出版した、「即席料理 素人包丁」（大阪市史編纂所蔵）です。その名のとおり、家庭で作る簡単な料理に特化した、現在でいうところのレシピ本です。持ち運べ、作業の邪魔にならないコンパクトサイズ（縦7cm×横16cm）で、序文には「此書ハ百姓家・町家の素人に通じ日用手りやうりのたよりともなるべきか」とあります。ふいの来客にも慌てぬようにと、「鱈」「汁」「煮物」など、御膳に必要な料理別に分類してあります。

2つほど紹介しましょう。いわゆる「南蛮料理」です。どちらも、屋台などで気軽に食べられる庶民の味でした。みなさんも、今晚のおかずはいかがですか。（白杉 一葉）

イカのカピタン和え…「カピタン」はオランダ語で「船長」のこと。素揚げがポイント。

◇材料◇

- ・イカの足 1杯分
- ・醤油（下味用）
- ・ごま油
- ・味噌
- ・刻み長ネギ又は唐辛子

◇作り方◇

- [1] イカの足の皮をむき、2本ずつ切り分ける。
- [2] 醤油で下味をつけ、よく水気を切ってごま油で揚げる。
- [3] 小口切りした長ネギまたは唐辛子を混ぜた味噌で和える。

◇メモ◇…味噌の中身はアレンジ可。唐辛子味噌の場合は、小口切りしたネギを上にも飾る。

イワシの天ぷら…ポルトガルから伝来した料理法。

◇作り方◇

- [1] 頭を取り内蔵の下処理をして布巾で水気を切る。
- [2] 骨ごとすり鉢ですってつみれ団子にし、ごま油で揚げる。
- [3] 付合せにセリ・ミツバ・ささがきゴボウ・ミズナなどを添える。
- [4] ショウガとサンショウを別皿にのせ、お好みで。

◇材料◇

- ・イワシ 数尾
- ・ごま油
- ・セリ、ミツバ、ミズナなどお好みの野菜
- ・生姜と山椒



「即席料理 素人包丁」より（大阪市史編纂所蔵）

暮らしのなかの「新体制」 —モデルとしての「大和一家」—

日中戦争が長期化する中で、昭和15年(1940)から新体制運動という、国内体制強化の試みが推進されました。この運動では高度国防国家建設の掛け声の下、日本のあらゆる分野を含む制度の大変革が目指され、運動の中核体となるべく大政翼賛会^{たいせいよくさんかい}も結成されました。このような情勢は大阪市にも波及し、昭和16年には「心構えの新体制」・「家庭生活の新体制」・「隣組の新体制」の3つを目標に、市民生活の新体制運動が展開されました。

大阪市の運動の推進には、全国的な新体制運動の宣伝のため考案された、「大和一家」という11人構成の大家族のキャラクター達も動員されています。右の写真は昭和16年の1月4～24日にかけて心齋橋にあるそごう(大阪本店)で開催された「市民生活新体制運動展」の展示です。舞台上にいるのが大和一家で、戸主は体操教師の賛平^{さんぺい}、妻はたみという設定です。他の家族は、祖父武士^{たけし}、祖母ふじ、賛平夫妻の長男勇、長女さくら、次男二郎、次女みさを、三男三郎、三女稲子、四女昭子といます。

この展覧会は、「臣道実践」という翼賛運動の標語が掲げられているように、大政翼賛会の後援の下で、大阪市が主催しました。大和一家は主に、「家庭生活の新体制」の宣伝に利用されました。これは、「物と金と時間」の「合理的」な活用により、質素でも「剛健で明朗」な家庭生活の達成を目指したものです。「心構えの新体制」で、「お国の力」のための労働を訴えているように、担税力の向上が狙いです。家庭生活の刷新のため、例えば1月は「新生活の実行」、2月は「家事能率増進」というように、月ごとに標語が設定されました。展覧会では、各月の標語に大和一家が登場する漫画のパネルが作成され、各標語に対応した実践すべき事項が分かり易く示されました。

下の写真は12月に該当し、標語は「反省と希望」です。ここでは、大和一家が家計簿に基づいて一年間の貯金を確認しつつ、次の年の「予算生活の合理化」を相談しています。家計簿などを用いた予定・家計の管理は生活の「合理化」の基礎であり、「新生活の実行」(1月の標語)においても、生活費の予算や仕事の予定の作成が推奨されています。このように市民生活新体制運動は、生活に密着し、かつ各実践事項自体はさほど困難でなかったため、視覚的にも印象に残る形で宣伝されたのでした。



「市民生活新体制運動展」(アルバム。上下写真とも)
(大阪市史編纂所蔵)

下の写真は12月に該当し、標語は「反省と希望」です。ここでは、大和一家が家計簿に基づいて一年間の貯金を確認しつつ、次の年の「予算生活の合理化」を相談しています。家計簿などを用いた予定・家計の管理は生活の「合理化」の基礎であり、「新生活の実行」(1月の標語)においても、生活費の予算や仕事の予定の作成が推奨されています。このように市民生活新体制運動は、生活に密着し、かつ各実践事項自体はさほど困難でなかったため、視覚的にも印象に残る形で宣伝されたのでした。



下の写真は12月に該当し、標語は「反省と希望」です。ここでは、大和一家が家計簿に基づいて一年間の貯金を確認しつつ、次の年の「予算生活の合理化」を相談しています。家計簿などを用いた予定・家計の管理は生活の「合理化」の基礎であり、「新生活の実行」(1月の標語)においても、生活費の予算や仕事の予定の作成が推奨されています。このように市民生活新体制運動は、生活に密着し、かつ各実践事項自体はさほど困難でなかったため、視覚的にも印象に残る形で宣伝されたのでした。

編纂所からのお知らせ

○刊行物

『大阪の歴史』（本体 700 円 送料実費）

第 95 号

- ・大坂三郷の大工集団一天満大工組を中心に……………田坪 賢人
- ・明治末期における一兵卒の上等看護卒への道のり
—「森田義雄氏関係資料」を材料に—
……………加藤 真生
- ・近代大阪の「不良住宅地区」における健康と救療
—旧豊崎村を事例に—
……………井ノ元ほのか



令和 5 年 10 月刊行予定

[大阪市史史料]（本体 1800 円 送料実費）

第 93 輯

『御用録(中)』

大坂町奉行が与力に発給した組触をまとめた『御用録』。明和元年から約 20 年間に記録された 814 件を収める全 3 巻のうち、最新の本巻は、明和 8 年 (1771) 8 月から安永 8 年 (1779) 7 月分を収録する。

令和 5 年 3 月刊行

第 94 輯

『杉村久子日記—明治四十四年から大正元年(一)—』

五代友厚の四女として中之島に生まれ、友厚との縁から船場の古い商家・杉村家に嫁いだ杉村久子の日記。大阪で生まれ暮らした一女性が、明治末から昭和戦前期にかけて書き続けた長大な日記の、記念すべき「最初、筆始め」。

令和 5 年 10 月刊行予定

刊行物のお求め方法

大阪市史編纂所の刊行物は、大阪市史料調査会で窓口・通信販売を行っています。また、下記の書店でお求めいただけます。詳しくは大阪市史料調査会（大阪市立中央図書館 3 階・TEL06-6539-3333）までお問い合わせください。

取り扱い書店— ジュンク堂書店（大阪本店・難波店）
紀伊國屋書店（梅田本店 ※『大阪の歴史』最新刊のみ）

■「編纂所だより」は、年 2 回発行しています。

さまざまな歴史の話題や日々の活動などを、みなさんにわかりやすくお届けする、ニュースレターです。大阪市立各図書館のほか、各区役所、各区民センター、市役所市民情報プラザ、総合生涯学習センター及び各市民学習センター、大阪歴史博物館、大阪城天守閣、住まいのミュージアムなどに置いています。大阪市立中央図書館（3 階大阪コーナー）及び各区の図書館では最新号を常備していますので、カウンターでおたずねください。

■大阪市史編纂所では、ホームページを開設しています。

催し物や刊行物のご紹介をはじめ、今日、大阪でどんな出来事があったかを知る「今日は何の日」、全国の図書館に寄せられた「おおさか」に関する質問にお答えする「みんなの質問」など、市域の歴史に関する情報を発信しています。「編纂所だより」もカラー版で閲覧・ダウンロードしていただけます。ぜひ、ご覧ください！

https://www.oml.city.osaka.lg.jp/?page_id=871 または「大阪市史」で検索してください。

（令和 5 年 9 月発行）